

# 安保法審議「尽くされず」75%

## 賛成30%、反対51%

安全保障関連法が成立したことを受け、朝日新聞社は19、20両日に全国緊急世論調査（電話）を実施した。安保関連法に「賛成」は30%、「反対」は51%で、法律が成立してもなお反対が半数を占めた。国会での議論が「尽くされていない」は75%、安倍政権が国民の理解を得ようとする努力を「十分にしている」は74%に上った。

▼2面：地元で説明、3面：質問と回答、8面：社説、32面：動き続ける

### 本社緊急世論調査

安全保障関連法に...  
 参院の委員会が採決が速行された国会での進め方は...  
 安倍政権が、広く国民の理解を得ようとする努力を...  
 その他答えないは省略

内閣支持率は36%（9月12、13両日の前回調査は36%）で、第2次安倍内閣の窮乏以降、最も低かった。不支持率は45%（同42%）だった。

参院特別委員会が採決が速行され、本会議で可決、成立した国会での進め方は「よくなかった」が67%で、「よかった」の16%を

大さへ上回った。国民支持率も「よくなかった」が48%で、「よかった」の34%を上回った。

5月に安保関連法案が国会に提出された後、法案への賛否を5回にわたって尋ねてきたが、いずれも「反対」が5割を超えていた。法律成立後の今回も、その傾向に変わりはない。

安保関連法をめぐる国会審議も、議論が十分だったと受け止められていないようだ。国会での議論が「尽くされた」12%に対し、「尽くされていない」は75%と大きく差が開いた。

安保関連法について、安倍政権が広く国民の理解を得ようとする努力を十分に

していると感じる人は「十分だとしてきた」16%に対し、「十分にできていなかった」は74%だった。内閣支持率でも、「十分にできてきた」は36%で、「十分にできていなかった」の52%を下回った。

安保関連法が憲法に違反していると感じる人が「違反している」は51%で、「違反していない」の22%を上回った。

安保関連法成立に反対した民主党や維新の党など野党の対応については、「評価する」34%、「評価しない」は49%。

民主支持層では「評価する」は73%だったが、無党派層では「評価する」32%、「評価しない」43%だった。

# 目覚めた主権者意識

特別編集委員 山中 季広

後世の人々が「2015年安保」をネットで検索したら、首相の写真よりSEI A.T.I.Sのテモ映像の方が多く見つかったという。

「立憲主義って何だ」「戦争したくなくてあるえる」。戦地へ送られかねない世代の憤りをよく目に可視化した。

批判も浴びた。国会審議中は「テモで政策を変えるなんて代議制の全否定」。成立後は「結局はムダだったじゃないか」と。

言うまでもなく、投票とテモは代議制民主社会を支

える2輪である。主権はたしかに投票だろう。テモという補助輪なしでも安全に進む車が理想的だ。

しかしドライバーが主権一本で危険な運転を始めた時は違う。補助輪を回さねばならない。ドライバーが行き先をたがえた場合、補助輪の役割は大きくなる。

昨年の総選挙で首相は、アベノミクスを唯一の争点かのごとく論議した。党の公約2万7千字中、安全保障はわずか数百字。「集団的自衛権」の文字もない。

安保法案提出を明言したとはいえ、選挙戦は増徴先送りの大宣伝だった。行く先を偽られたような感がぬぐえない。

審議はぶざまな薄切れとなったが、落胆する必要はない。海外での大がかりな街頭行動を見ても、若者たちの望む政策がただちに実現した例は少ない。大切なのは、同時代の主権者の胸に何を刻んだかだろう。

たとえば4年前の米ウォール街占拠の場合、行きすぎた経済格差に目を光らせて

る機運が生じた。公的資金の投入によって危機を脱した企業が経営陣にいくらか報酬を払っているか、社会の目は厳しくなった。

学生の就職志向も変わった。金融大手に憧れた就活生が「強欲企業」と呼んで避けるようになった。学費ローン返済に悩む低所得の卒業生をどう救うか、議論は具体化してきた。

民主選挙を求めた香港の雨伞革命では、学生たちが、香港政府を操る中国共産党の怖さを身をもって知った。「経済一辺倒で政治

に沈黙し続けた親世代の靴は踏まない」。そんな覚悟が10代にまで浸透した。

米國や香港の若い世代には挫折感も残る。だがその主権者意識が以前の状態に戻ることにはなかった。

今回は日本でも、主権者意識が驚嘆すべき高まりを見た。高校生や俳優、元裁判官ら勇を鼓し、しがらみを排して声をあげた人の何と多かったことか。

政治色が多すぎるとされる

日本では異例の現象である。今回到達した民意の地平は、今後さらなる高みへ向かうはずだ。

今後は、安保法制が有効かどうかを争う選挙訴訟が提起されるだろう。来夏には18歳と19歳が初参加する参院選が控える。

この社会の主権と補助輪を回すのは私たち有権者の仕事である。1億2千万人の乗った車をみすみす壊すわけにはいかない。

9/21 朝日